

小学校家庭科ガイダンス教材の開発と評価

鈴木千春（兵庫教育大学大学院生）・永田智子（兵庫教育大学）

藤原典英（豊岡市立三方小学校）・平田己江子（姫路市立船津小学校）・足立德昭（多可町教育委員会）

方山直人、溝端美紀、坂下嘉一（篠山市立味間小学校）・吉田美津子（兵庫教育大学附属小学校）

概要：今次の学習指導要領の改訂に伴い、小学校家庭科において新規事項として盛り込まれた題材（単元）を中心に、教材の開発と普及活動を視野にいれ研究を進めている。本発表では、中間報告としてパナソニック教育財団 平成 23 年度先導的実践研究助成による「ICTを活用した小学校家庭科ガイダンスと振り返り授業を行うための授業実践パッケージの開発」より、ガイダンスの授業実践と本教材の評価について報告する。

キーワード：小学校家庭科、導入、ガイダンス、デジタル絵本、ICT活用

1、はじめに

今次の学習指導要領の家庭科編改訂の要点を見ると、新規事項として2学年間の学習の見直しを立てさせるためのガイダンスに関する内容が含まれた。

家庭科は5年生の児童が初めて学習する教科であるため、家庭科に対する不安を和らげ、家庭科の学習に興味や関心が持てるよう配慮が必要である。またこのガイダンスの授業は家庭科の導入の部分にあたり、授業開きともいえるガイダンスの授業の役割は大きいといえるが、先行実施がなされていない。そのためガイダンスの授業に適切な、教材・教具や指導案の作成が急務であると考へた。そこで、家庭科の導入に使用できるガイダンス教材としてデジタル絵本を開発し、授業実践を行った。

本発表ではデジタル絵本を活用した、ガイダンスの授業実践による教材の評価を報告する。

2、教材開発の方法

(1) 開発の視点

学習指導要領総則第1章4、2、9で示された各教科の指導の共通点にあたる「言語活動の充実」と「視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る」という2点とし、主になる教材

にデジタル絵本を導入する。

デジタル絵本を製作するにあたり、教員の視点は「操作が簡単で使いやすい教材」であること、児童の視点は「特別な支援を必要とする児童はもちろん、全ての児童にとって分かりやすく、興味を持ち楽しく授業に取り組めることができるよう、視覚を重視した教材」であることとした。

(2) デジタル絵本の特徴

『家庭科かくれんぼ』という題名で絵本を製作し、プレゼンテーションソフトを使用してデジタル化した。デジタル絵本は絵本画面からリンク画面に飛ぶ構造（図1）になっている。



図1 絵本画面とリンク画面の特徴

絵本画面は、家庭科を身近に感じられるように、日常のどこにでもあるお話（図 2）にし、それを読み聞かせることで、視覚と聴覚の両方からイメージを伝えることができると考えた。



図 2 絵本画面の第 1 場面

リンク画面は絵本からイメージした家庭科をより具体的な学習内容として提示するために製作した（図 3）。



図 3 第 1 場面のリンク画面

この 2 つの画面の関係と学習指導要領のどの

内容に該当するものなのかを教員にわかりやすく提示するため、解説書（図 4）を作成した。



図 4 デジタル絵本の解説書

(3) 調査の方法

2011 年 4 月に授業実践協力校において授業をおこなった。

教員には授業後にアンケート調査を依頼し、児童には授業の始めと終わりにワークシート兼アンケート調査をおこなった。

3、デジタル絵本を活用したガイダンス授業実践

(1) 授業実践協力校と対象者

32 校の協力校により、52 回の授業実践をおこなった。対象者は各学校の第 5 学年の児童 1431 人であり、内 215 人のワークシート兼アンケート用紙を回収した（表 1）。

表 1 授業実践の概要

実践地域	実践校数	授業回数	教師用アンケート回収数	児童数	ワークシート兼アンケート回収数
姫路	11	27	12	886	0
篠山	11	12	12	224	68
丹波	5	6	5	107	0
多可	3	3	3	81	50
豊岡	1	1	1	20	0
附属	1	3	1	97	97
合計	32 校	52 回	34 枚	1431 人	215 枚

(2) 授業の目的

家庭科の導入にあたるガイダンス授業において、本教材を使用し本時の目標である「2 学年間

で学ぶ家庭科の学習内容を知る」と「家庭科学習に関心を持ち2学年間の見通しを持って学習に取り組もうとする」が達成できるのかを検証することを目的とし授業を実践した。

（3）授業内容

授業はデジタル絵本の『家庭科かくれんぼ』を教員が読み聞かせをし（図6）、児童が「家庭科」に関する内容を探し、リンク画面で確認（図7）（図8）をしながら授業を進めていく。

授業の導入とまとめ時に、児童にワークシートの記入をさせ、本時の目標の達成度を見ることができるようにした。

また、以下（図5）のアンケートにおいて該当する箇所の番号に○を付けさせ、本時の振り返りをさせた。

- | |
|--|
| 1, 楽しく活動することができましたか
①たいへんできた ②少しできた ③あまりできなかった ④全くできなかった |
| 2, 授業に集中して取り組むことができましたか
①たいへんできた ②少しできた ③あまりできなかった ④全くできなかった |
| 3, 「家庭科」で学ぶ内容が理解できましたか
①たいへんできた ②少しできた ③あまりできなかった ④全くできなかった |
| 4, 「家庭科」の学習が楽しかったですか
①たいへん楽しみ ②少し楽しみ ③あまり楽しみではない ④全く楽しみでない |
| 5, 『家庭科かくれんぼ』の絵本は分かりやすかったですか
①よくわかった ②わかった ③あまりわからなかった ④全くわからなかった |

図5 児童用アンケートの質問項目



図6 教員による読み聞かせ



図7 リンク画面による確認①



図8 リンク画面による確認②

3、結果と考察

（1）教員用アンケート調査より

家庭科の授業にICTを活用したことの無い教員14名、プレゼンテーションソフトを使用したことが無い教員12名、内両方無い教員5名という中での実践となったが、アンケートの結果は「教材の準備が省ける」「操作がしやすい」「テンポよく授業が進む」「説明がしやすい」の全てにおいて90%以上が「そう思う・ややそう思う」と回答し、「全く思わない」は0%であった。このことは、ガイダンス教材の開発の視点の1つである、「教員にとっては、操作が簡単で使いやすい教材」の制作を目指したことが、教材の使用感として良い結果であったと考えられる。

授業中の児童の様子についても「児童の家庭科に対する興味関心が高まる」「児童が授業に集中しやすい」「児童の理解度が上がる」の全ての項目において「そう思う・ややそう思う」が90%以上と高い結果であった。

絵本画面では「日常の中に家庭科があるというイメージがもてる」において 94%が「そう思う・ややそう思う」と回答した。しかし総画面数が多いと感じる教員が 15%いることや、「子どもたちの興味関心をひくストーリーであった」、においては、「そう思う・ややそう思う」が 74%にとどまったことなど、絵本の質や構成の改善の指摘があった。

リンク画面では「家庭科の具体的な学習内容がわかる」において、100%の教員が「そう思う・ややそう思う」と回答した。改善項目としては、「既習項目の提示の仕方をわかりやすくする」「リンクを張る箇所を増やす」などがあり、修正の検討項目とした。

（2）児童用アンケート調査より

まず、「楽しく活動することができましたか」について「大変できた」64%、「少しできた」35%の回答があり、ほとんどの児童（99%）が家庭科初回の授業を楽しめたことがわかった。続く「授業に集中して取り組むことができましたか」「家庭科で学ぶ内容が理解できましたか」においても「大変できた・少しできた」がそれぞれ 96%、99%と回答しており、これは、教員から見た授業中の児童の様子についてのアンケート調査の結果と一致する。さらに「「家庭科」の学習が楽しみですか」の質問にも、88%が「大変楽しみ」、10%が「少し楽しみ」と答えている。これらの回答から、ほとんどの児童は、楽しく活動することができ、授業に集中して取り組むこともできた。また、「家庭科」で学ぶ内容が理解できたうえで、さらに「家庭科」の学習が楽しみであると感じていることは、本時の目標を達成するために大きくかかわる結果ではないかと考えられる。

（3）児童用ワークシート事前・事後より

事前と事後に「家庭科と聞いて思いつく言葉」を記述させ、頻出単語を学習指導要領の内容に沿

って分類した（表 2）。

表 2 各内容における頻出単語数と記述者数

	件数		人数	
	事前	事後	事前	事後
A家庭生活・家族	39	141	32	94
B食	540	686	200	203
C衣	377	445	187	190
C住	50	211	47	151
D消費・環境	0	221	0	137
その他	106	144	77	88
記述なし			2	0
合計	1112	1848		

児童が家庭科と聞いて思いつく言葉は「食」に関する内容と「衣」に関する内容が中心であり、「家庭生活・家族」や「住」に関する内容に触れる児童は少ない。また、注目すべき点の 1 つは、事前の児童の記述の中に「消費・環境」に当たる内容が、1 件もなく 1 人も書くことができていなかったことである。それが、事後には 137 人が「消費・環境」の内容に気づき、221 件の記述ができた。全体的には事前事後間の単語数は 700 以上増加し、家庭科のイメージが膨らんだのではないかと思われる。

4、まとめと今後の課題

授業実践協力校から見えてきた本教材の評価結果は、家庭科をイメージさせ、学習内容を具体的に伝えることに有効であり、児童の学習に効果的であることが示唆された。さらに教員にとっても概ね使いやすい教材であるといえる。

今後は絵本画面とリンク画面の改善項目の修正を図り、小学校家庭科ガイダンス教材として、児童の学習効果を上げるとともに、教員の ICT 活用を支援する教材としてパッケージ化し、普及活動を行う。